



Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通した「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度の新型コロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

カテゴリ：

行政・医療・教育機関向け

開催日時：2020年4月29日

講師：

前 大阪市立小路小学校 教諭

現 大阪市立東三国小学校 教諭

大貫 翔貴氏

他一名（大阪市立小路小学校 教諭）



教師歴は、9年目。

2019年度まで大阪市立小路小学校で勤務。2020年度からは、大阪市立東三国小学校に転勤となった。

これまで大阪市立小路小学校では、研究主任やICT担当などを務めてきた。

また、大阪市内の先生とグループを組み、国語科の研究も行っている。

子どもも教師もゼロからのスタート

～Teamsを使って普段の授業を～

「私たちは、初めからオンライン授業を計画し、行ったわけではありません。そもそも、私たち教師はTeamsって何？というレベルからスタートしたのです。つまり、何も知らない状態から自分たちのできることが見えてきて、Teamsを使ったオンライン授業をやってみることになりました。」（大貫氏）

まず、大阪市内で公立小学校の教諭をしている大貫氏は、3月中旬から4月中旬にかけての約2週間で計14回（大貫氏は国語の授業を6回、他の教諭が算数と社会を4回ずつ）のオンライン授業を実施した経緯を語ります。

コロナウイルス感染拡大を防ぐため、当時の勤務先だった大阪市立小路小学校の管理職から経済産業省の「学びを止めない未来の教室（協力企業の一覧が掲載されているもの）」を紹介され、マイクロソフトからSurface Goを貸与していただくこととなりました。

「初めは、児童に学習動画をみせることができれば良いと考えている程度でした。しかし、卒業式のライブ配信もできることや50台という台数制限があることを知り、在校生代表として5年生に端末を配ることにしました。」（大貫氏）

準備期間はわずか2日間でした。3月17日に、マイクロソフト社員が児童にTeamsの使い方を説明。分散登校のため、一人当たり約10分間の簡単な説明でしたが、翌18日の卒業式のライブ配信を5年生が視聴することに成功しました。また、その日の午後から教員向けのTeams研修会を1時間程度開き、基本的な操作を学びました。そこでやっと、大貫氏はオンライン授業のイメージができて「オンライン授業をとりあえずやってみよう」と試みることになりました。

大貫氏が考える「普段の授業」とは、教師からの一方通行の授業ではありません。それは、「教師と児童・児童と児童」がつながる対話のある授業です。つまり、子どもと作り上げる授業を「普段の授業」と述べています。では、普段は教室で実践できているこの授業をオンラインでいかに実現したのでしょうか。

まず、キーボード入力に不慣れな子どもが在宅でいきなりTeams会議を使いこなすことはできません。大貫氏は初日を「オンライン授業の流れとルールを子どもと確認し、ツールに慣れる練習」に充てました。

Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

私たちが考える「普段の授業」とは



「画面共有をし、発言の仕方など Teams の使い方を改めて説明しました。そして、『大貫先生の子どもの名前は？』などの簡単なクイズで発表の練習を行いました。」(大貫氏) この練習を通じて大貫氏は気づきを得ます。ひらがな変換ができない児童やローマ字入力が苦手な児童にとっては発表しづらいということです。逆に、普段の授業でも使っている「つけたし」を自ら発言してきた児童もいました。「発表の方法を『はい』としか教えていないのに、すごいなと思いました」(大貫氏)

2日目は、1日目の児童の様子から「7：意見、8：質問、9：つけたし」など数字でも発表ができるよう工夫しました。そのおかげで、発言できる子どもが増えたと大貫氏は振り返ります。また、「wa から n」「あってるそれや〇〇(子供の名前)」「ぐー(同じ意見であることを示すハンドサイン)」などのチャット書き込みがあったことに、大貫氏はとても驚きました。なぜなら、友だちとつながろうとする発言が児童自ら生まれてきたからです。しかし、勝手にミュートを外して発言する児童も現れました。これをミュートにする役割はフォロー役の教諭が担当し、授業とは無関係なコメントの削除にも対応してもらいました。

2日目は、1日目の児童の様子から「7：意見、8：質問、9：つけたし」など数字でも発表ができるよう工夫しました。そのおかげで、発言できる子どもが増えたと大貫氏は振り返ります。また、「wa から n」「あってるそれや〇〇(子供の名前)」「ぐー(同じ意見であることを示すハンドサイン)」などのチャット書き込みがあったことに、大貫氏はとても驚きました。なぜなら、友だちとつながろうとする発言が児童自ら生まれてきたからです。しかし、勝手にミュートを外して発言する児童も現れました。これをミュートにする役割はフォロー役の教諭が担当し、授業とは無関係なコメントの削除にも対応してもらいました。

「3日目には Teams の予定表に会議が反映されないというトラブルも生じましたが、別のやり方で授業に参加する方法をチャットで伝えました。そのことを LINE 電話でクラスメイトに教えてくれる子もいたのです。子どもたちに助けられていると感じました。」(大貫氏)

授業中も他の子の意見に賛同を示す子どもが増え、「ここまでできるならば子ども同士で対話をさせたい」と大貫氏は考えます。そこで、チームのチャンネルを増やし、少人数で交流できるようにしました。具体的には、まずは全体で新しい言葉を学習し、次に学習したことをグループで交流し、最後に全体に戻って共有しました。「グループの様子は私たち指導者が見に行けます。チャットが止まっているグループには助言をし、良い発言は覚えておいて全体での共有で取り上げることもできました。」(大貫氏)

4日目には、子どものほうから「意見交換したい」という提案があるなど、子どもと共にオンライン授業をより良いものにしていくことができるようになってきました。5日目には、子ども同士が他の子の発言に「いいね」を入れて賛意を示すことを覚え、認め合う姿も見ることができました。また、教師が一人で授業を行えるようにもなりました。つまり、大貫氏の「子どもと共に作るオンライン授業」はひとつの形として完成しました。その形とは、普段の授業の姿とほとんど変わらないものでした。

大貫氏とともにオンライン授業を実践したもう一名の教諭は、「今でもガラケーを使っているほど機械は苦手な人間です」と明かしつつ、Teams は思っていたほど難しくはなかった。オンラインで授業をやって良かった。と、振り返ります。「私は学習計画用に子どもと同じようなノートを作成します。それを元にして、子どもたちがノートを作るのが基本的な授業の流れです。今回のオンライン授業ではこの学習計画用ノートを印刷して配布し授業をおこないました。穴埋めになるように作っているので、自分の考えも書くことができます。ときには『家の中にある角柱と円柱を探してみよう』と呼びかけ、お菓子の筒など身の回りの物を探して見せ合うこともできました。保護者の中には、授業と一緒に見ている方もおられ、学校での様子を垣間みることができよ機会だったと思います」

なお、SNS でのいじめなどが問題視される中、Teams を通じて子ども同士がトラブルになることは避けなければなりません。授業後にはすぐに会議をキャンセルし、個人チャットや通話もできない設定にしました。

今回のオンライン授業に参加した児童に Forms でアンケートを取ったところ、約 9 割が授業内容を「よくわかった」、約 8 割が発言や対話を「できた」と回答。大人数がある教室よりも在宅でのほうが意見を言いやすいと言う声もありました。「オンライン授業だからと難しくは考えず、まずは普段の授業を Teams を使ってやってみる。すると問題点が出てくるので、次はこうしようという創意工夫をすればいいのだと思います。これは私たち教師が普段の授業でも日々やっていることです。」(大貫氏)

ステップを踏んでいけば普段の授業をオンラインできることを体験した大貫氏。ICT のスペシャリストでなくても、子どもと共に授業を作り上げていけると強調します。まずはやってみましょう！



オンライン授業の実践

どのように、授業を組み立ててきたのか？
・時系列に沿って、実践内容や工夫

実施期間	1日目
3月19日～	【試す】 オンライン授業の流れを確認、ツールに慣れる練習、試し授業を実施
4月14日	2日目 【工夫する、慣れる】 先生自身で授業をやりやすくする工夫、子どもたちの慣れからくる発言増
約2週間	3日目 【子ども同士で対話を始める】 子ども達が教え合う・子どもどうしの対話の成立
〈実施授業〉	4日目 【子ども主体の授業へ発展】 子どもと共に作るより良いオンライン授業
国語 6回	5日目 【オンラインならではの授業のひとつの形】 先生が1人で行えるようになる・子どもが認め合う
算数 4回	6日目～ 【オンラインの中で作っていく普段の授業】 先生、子どもが共に工夫し、アイデアを出していく
社会 4回	
合計 14回	